

6361 - 62
平成17年7月6日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

平成17年度病害虫発生予察注意報第5号について
平成17年度病害虫発生予察注意報第5号を発表したので送付します。

平成17年度病害虫発生予察注意報第5号

平成17年7月6日
宮 崎 県

病害虫名	クワシロカイガラムシ
作物名	茶
1 発生地域	県下全域
2 発生時期	-
3 発生量	多

4 注意報の根拠

1) 6月中旬の巡回調査におけるクワシロカイガラムシの発生は、発生面積率70.6% (過去9カ年平均値18.0%)、発病株率30.6% (過去9カ年平均値7.1%)で、平年に比べ多い発生であった。(図1)

本年は既に注意報(4月27日付け)を発表したところであるが、依然として発生の多い状況が続いている。

2) 本年の第1世代の防除適期が一番茶の摘採時期と重なった茶園では、防除時期が実際の防除適期より遅れており、十分な防除効果が得られていない茶園も認められている。

3) 向う1ヶ月の天候は、平年と同様に晴れの日が多く、気温は高い、降水量は平年並と予想されており、クワシロカイガラムシの増殖に好適である。

(鹿児島地方气象台 7月1日発表)

5 防除上の注意

1) 防除はふ化最盛期に行うことが大切である。ふ化幼虫は日が経過するにつれて口ウ物質で体を覆うため、適期を失すると薬剤の効果は期待できないので注意する。

2) 防除適期は2~3世代では幼虫初発の1週間後である。本年の児湯地域での防除適期は第2世代が7月10日前後と予想される(茶業支場調査)が、地域やほ場によって防除適期は異なるので、ふ化状況を確認してから薬剤散布を行うことが必要である。

また、第2世代の防除時期は三番茶収穫前になるため、薬剤散布する際には収穫前日

数に注意する。

第3世代の初発は8月下旬から9月上旬と考えられる。(表1)

2) この時期における薬剤散布はクワシロ専用の噴口を用いて、成木園で10a当たり1,000リットル程度を、噴口を茶株の中に差し込むなどして枝幹に十分かかるように行う。

3) 茶園の周縁部に多く見られる傾向がある。今まで発生を認めていない園においても、茶園を注意してよく観察し、発生を確認した場合は早めに防除対策を講じる。

5) 防除適期及び防除薬剤等その他の詳細については、病害虫防除・肥料検査センター、総合農業試験場茶業支場、農業改良普及センター等関係機関に照会すること。また、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》
 病害虫防除・肥料検査センター
 松浦
 TEL：0985-73-6670
 Fax：0985-73-7499
 E-mail：matsuura-akira@pref.miyazaki.lg.jp

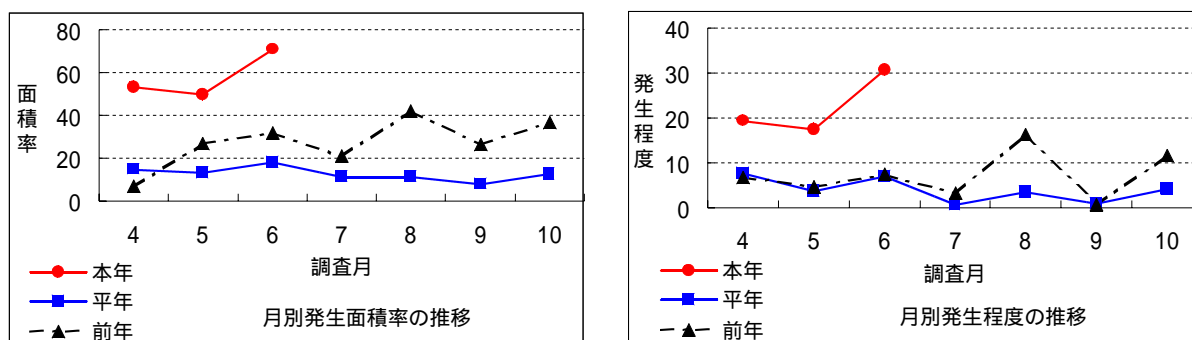


図1. クワシロカイガラムシの発生状況

表1. クワシロカイガラムシ初発日

地域 \ 世代	1	2	3	4
串間	4月下旬	6月下旬	8月下旬	10月上旬 ~中旬
都城	4月下旬 ~5月上旬	6月下旬 ~7月上旬	8月下旬 ~9月上旬	10月上旬 ~中旬
川南	4月下旬	6月下旬	8月下旬	10月中旬

総合農試茶業支場内の最も発生の早い茶園での観測値。